会員のひろば

美唄歯会の夜明け（その３）

美唄歯科医師会会員　雨田　　実

美唄市百年史によると，大正５年10月10日三菱美唄鉱業所病院開設の次の行に，沼貝村で初めて高橋歯科医院（高橋常保院長）開設と記されている。その年の沼貝村の戸数３千２百，人口２万７百と記されている。美唄市制30年の歩みには当市における歯科の嚆矢は高橋常保氏が大正８年，現在でいえば西１条通りと空知神社参道の交わる南に医院を開設したのが始めとある。現在は，すっかり数の少なくなった明治生まれの古老にたずねると，確か隣家は串田鉄工所であり昭和11年函館本線ガード下の銀河の南に移転されるまで開業されていたとのことで，そのため翌年５月１日の大火の難をまぬがれたとは，まことに運の良い話である。北海道歯科史料ノート道人名辞書によると，大正７年医院開設とあるが，前年夕張市街地に遊び視察するところありとあるので，ご長男の常美先生に問い合わせしたところ，確かに夕張市街地で開業されていたのは確かで，その折に先生の姉上が誕生されているという。その姉上が先日ご不幸になった，岩見沢歯会会員の宮地信司先生の奥様になられたお方と思われる。高橋先生はその頃，夕張が後年あのように大きくなると予想出来なかったようであったらしく，交通の便と将来の発展ではむしろ室蘭を望んでいたそうである。またニシン景気の積丹の岩内（奥様の出身地）も視野にあったそうである。それがどうして美唄をとなるが，歌志内開業の友人が美唄に何年か出張診療をされていて，その折の収支記帳簿を見せてもらったうえ，医院住居などの世話までしてくれたので心が動いたとのことである。室蘭の友人からは，そこまで具体的な話はなかったようであったとお聞きする。林清太郎先生門下の優等生として，いずれ札幌という夢は当然あったのでは（美唄なら交通の便の点だけでも，他の３地区より勝れていると）と思われる。後日常保先生談によると，歌志内の友人の美唄出張診療収支簿は農閑期の歯科医院の最盛期の数ヵ月間のものであったようで，正に千慮の一失であったとのことで，それ故か開業されながら嘱託医として三菱美唄炭鉱病院の歯科に通勤され，夜間開業が主であったそうであるが保険外診療が主力であり，ゴールドが主であった古き良き時代であったことに変わりはなく，現在とは大変なちがいと思われる。

昭和６年９月満州事変，同７年１月上海事変，２月９日金解禁の前蔵相井上準之助氏射殺される，２月22日爆弾三勇士戦死，29日リットン調査団来日，３月満州国建国宣言，５月15日５.15事件，６月特高警察設置を公布，７月ナチス第１党となる。昭和８月２月小林多喜二虐殺，23日日本軍熱海作戦開始，７月神兵隊事件，20日政府満州移民計画発表，国際連盟脱退，昭和９年12月政府ワシントン軍縮条約廃棄を米国に通

告，昭和10年２月天皇機関説問題起こる，８月陸軍省永田軍務局長を皇道派相沢中佐が刺殺，10月伊，エ戦争起こる，昭和11年ロンドン軍縮会議から脱退を通告，２月26日２.26事件岡田内閣総辞職，東京市内に戒厳令布告，７月スペイン内乱起こる。11月日独防共協定調印。物価騰貴で賃上争議激増と僅か数年で軍靴の響きと戦争の足音は日増しに高くなっていった。この頃から官主導の空襲を想定して防空訓練，燈火管制の訓練が全国的に行われたという。美唄方面会月例会の当日が，たまたま燈火管制の訓練の日に，大ハゲこと桜田先生当時方面会幹事宅で夜間例会のため黒色の厚手の布を電燈にかけて外部に光のもれないようにして会議を開催中に，どうしたことか，外部から，桜田先生のお宅から灯りがもれておりますと，大声で注意を受けたという。会議中であり誰も窓も開けてないのに？方面会会員一同大ハゲこと桜田先生に注目して大笑いとなり，しばしどよめきなりも止まずであったとか，古き良き時代のほほえましき，ひとこまがあったとか。その後10年も経ないで国中が焼け野原になり道内では室蘭が艦砲による攻撃を受けるようになることを，その時に予想し得た人が，果たしていたであろうか。夜半にここまで書いた辺りで今回の参議院選開票の結果の大勢が判明，予想をはるかに越えた自民党の大敗が報道されて驚いてしまった。この結果を見て一番驚いたのは橋本総理自身ではなかったろうか？歴史は繰り返すというが戦前の昭和11年２月20日岡田啓介内閣は第19回総選挙を行った。多数野党の政友会が内閣不信任案を提出したのを受けて，政府と与党の民政党が１月21日議会を解散したという。その前の選挙は７年２月20日の犬養内閣のときであり，その後４年の間に血盟団事件，５.15事件，国連脱退など内政，外交上の事件が相次ぎ，民政，政友両党の政争，陸軍内部の派閥抗争などあって，国民の間からも解散選挙によって政局転換を望む声が高くなったという。いわゆる粛正選挙である。内務省官僚による政党の党利党略を批判し政治浄化を旗印として選挙に深く介入して，政党の運動を抑圧，その狙いは国民の時局への不満と政党の政策が結びつくことを防ぐことにあったという。選挙の結果は与党民政党は78議席増やして大勝し，第１党であった政友会（現在の自民党の前身に近い）は解散時より71議席減らし第２党に転落し政友会総裁まで落選という空前のことがあったという。この選挙で岡田内閣の狙いは達したかに見えたが，無産政党の躍進は目ざましく，社会大衆党18議席（解散時３議席）他の無産団体４議席の計22人が当選し必ずしも意図通りにはならなかったという。それから６日後，雪中のクーデター，２.26事件が日本中を震憾させた事件が起こり，その後の広田内閣は組閣に対する軍部の介入が甚だしく内定ずみの閣僚人事にまで反対をし，軍部独走への道をひらいて軍部追随内閣を組閣してしまい，予算歳出の46％強にのぼる軍事費をみとめて，予算総額は30億４千百万におよび，前年の予算案に比べじつに33％の増加だったという。このようにして本格的戦争態勢に突入する道を選んでしまったという。

道内ではいうにおよばず，恐らく国内最小の歯科医師会美唄の存在を，一寸の虫にも五分の魂で蟷螂（とうろう，カマキリのこと）の斧を振り廻しているあわれさを，かみしめている。呵呵。